

第 6 回松本市交通政策検討委員会 (11/28) の振り返り

■ 議事

- (1) 第 5 回松本市交通政策検討委員会の振り返り
- (2) 松本市パーソントリップ調査結果の状況報告
- (3) 次期総合交通戦略策定に向けた検討について

(1) 第 5 回松本市交通政策検討委員会の振り返り

- ・ 資料配布のみ

(2) 松本市パーソントリップ調査結果の状況報告

【高瀬会長】

- ・ 平日と休日の移動実態を組み合わせた分析を行ってはどうか。定期券の休日利用への対応など、今後の取組み検討につながる分析が期待できる。

【事務局】

- ・ 属性や年代ごとに、平日と休日の交通手段の違いを分析し、施策検討に生かすことを想定している。

(3) 次期総合交通戦略策定に向けた検討について

【高瀬会長】

- ・ 現行の総合交通戦略では、施策とその評価指標の整合性が十分でない箇所が見受けられる。次期総合交通戦略の策定にあたっては、施策に合った評価指標を精査いただきたい。

【事務局】

- ・ いただいたご意見は、次期総合交通戦略を検討する際の参考とする。

【森委員】

- ・ 持続可能な公共交通体制の構築に向けて、路線バス事業に関心が集まりがちだが、鉄道についても併せて議論していく必要がある。

【事務局】

- ・ いただいたご意見は、次期総合交通戦略を検討する際の参考とする。

【金井委員】

- ・ 市外からの来訪者やインバウンドの動向に関する指標を取り入れてはどうか。信州まつもと空

港へのアクセス改善に向けて、更に検討の余地があるのではないか。

【事務局】

- ・市の総合交通戦略として示す範囲の検討は必要だが、ご指摘の点は、次期総合交通戦略を検討する上での参考とする。

【二條委員】

- ・バスの乗務員不足により、民間事業者への委託による現行規模のバス路線網の運行が難しくなっている。デマンド交通など路線バスに頼らない取組みも検討いただきたい。

【事務局】

- ・いただいたご意見は、次期総合交通戦略を検討する際の参考とする。

【片野委員】

- ・具体の市民像（ペルソナ）を意識した分析をぜひ進めていただきたい。インバウンドもペルソナ分析の対象に含めてはどうか。

【事務局】

- ・市の総合交通戦略であることを踏まえ、インバウンドをどこまで戦略の対象とするかは見極めながら、いただいたご意見を参考に検討を進めたい。

【山岸委員】

- ・ペルソナ分析を通じて松本市の 10 年後の将来像を検討するとのことだが、例えば現在 20 歳の学生が 10 年後に 30 歳になった時の移動や生活を想定するのか。あるいは現在 20 歳の学生と 10 年後に 20 歳となる学生の移動や生活を比較するのか。

【事務局】

- ・設定した市民の10年後の生活を想像し、その将来像を踏まえて必要な施策を検討する。例えば大学生であれば、卒業した後も地域に留まってもらうためにはどのような交通環境が必要か、高齢者であれば免許返納後の生活を支えるためにどのような交通手段が求められるか、といった観点から検討を進める。

【高瀬会長】

- ・現在学生の方の10年後を想定した分析では、学生の視点に立った検討ができないのではないかと。学生に対してどのような交通を提供していくかという検討も必要ではないか。

【事務局】

- ・現在の課題に対する施策も重要と考えている。ご指摘の点は今後の検討課題とする。

※委員会後に以下の内容を補足説明

- ・設定した市民像の現状の移動、生活状況を踏まえ 10 年後にはこうなっているとよい、こうしたという将来像を描き、そこに向けて必要な戦略や施策を検討する。
⇒前回委員会で頂いたご意見を踏まえ、本日の【資料3】にて、改めて再検討した戦略策定に向けた考え方をご説明する。

【山岸委員】

- ・運転手不足によるバス路線の休廃止や撤退が問題となっている。自動車への依存からの転換や多様な交通手段の最適活用に関する方策を検討しても、10年後にはその方策がそもそも実行できない可能性もある。将来をどこまで見通して検討するかが難しいと感じた。

【事務局】

- ・いただいたご意見は、次期総合交通戦略を検討する際の参考とする。

【三澤委員】

- ・タクシー乗務員もバス乗務員と同様に減少傾向にあり、今後の対応を検討する必要がある。各種統計を見ると、松本市は長野県内で最もインバウンドの来訪・宿泊が多い地域であり、次期総合交通戦略にはインバウンドの視点を取り入れることが不可欠である。

【事務局】

- ・いただいたご意見は、次期総合交通戦略を検討する際の参考とする。

以上。